



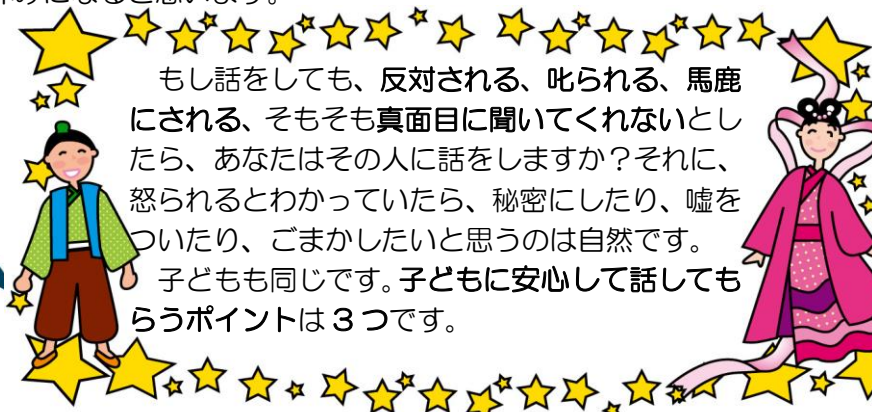
ハッピー子育てひろば



☆プロフィール☆
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)
香川大学医学部 小児専門医

みなさんさん、暑くなってきましたが、お変わりございませんか？
熱中症や睡眠不足など、体調管理には十分お気を付けください。
もうすぐ夏休みです。この機会にぜひ、「子どもの求める3つのこと」を実践してみてください。
い。モグラたたきは控えて、いいねスタンプを1つでも多く押してあげられたら、子どもにとっても親にとっても、素敵な夏休みになると思います。

子どもと 「話す」 3つのポイント



もし話をしても、反対される、叱られる、馬鹿にされる、そもそも真面目に聞いてくれないとしたら、あなたはそこに話をしますか？それに、怒られるとわかっていたら、秘密にしたり、嘘をついたり、ごまかしたいと思うのは自然です。子どもも同じです。子どもに安心して話してもらうポイントは3つです。

構えず気楽に聞けばいいのです



こんなふうに言葉を返してほしいな。

1. 評価しない
【良い・悪いは置いておく】
2. 責めない、怒らない
【なんでそんなことしたの】
3. 指導しない
【いいことを言おうとしない】

「なるほどね」
「おもしろい考えだね」
「どうしてそう思うの？」
「どうしたらいいと思うか考えを聞かせて」

娘が小学校高学年の頃のことでした。娘と話をしていると、話の中に、「これは大変だ、何とかしなきゃ！」と思うものがありました。そこで私は、担任の先生や、友達のお母さんに電話をして相談しました。子どものことを心配するあまりのことで、悪気などまったくなかったのですが、娘に「だから、お母さんには話したくなかったんだよ！」と泣かれてしまいました。とてもショックでした。
先走って行動したり、**過剰反応をしりしない**ということが、子どもの「安心して話す」ことを保障することになるんだと反省しました。

私たちは子どもに「今日、何があったの？」とよく聞きますが、自分から話すことは少ないですね。子どもが安心して話すには、まず大人から話しましょう。子どもは親の失敗話が大好きです。失敗談を聞いたからといって、子どもは親を馬鹿にはしません。逆にほっとするものです。失敗は誰にでもあるもの、笑い飛ばしてもいいし、そこから何か学べばいいんだと学習できます。
私は真冬に池に落ちた話や高松市内のお店を予約したつもりが沖縄のお店だった話、仕事で大失敗して医者をやめたくなった話など、いろいろ話します。すると、子どもから「ねえ、あの話、あれからどうなったの？」とか、「こんな失敗したことない？」と聞いてきます。何かあったんだなと思いつつ、話してみたいと思ってくれた気持ちに、とても嬉しくなります。